

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-321729

(P2005-321729A)

(43) 公開日 平成17年11月17日(2005.11.17)

(51) Int.Cl.⁷

G09F 13/00

B44C 5/08

B44F 1/08

G09F 13/18

G09F 13/20

F I

G09F 13/00

B44C 5/08

B44F 1/08

G09F 13/18

G09F 13/20

テーマコード (参考)

5C096

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2004-141574 (P2004-141574)

(22) 出願日 平成16年5月11日 (2004.5.11)

(71) 出願人 304018749

株式会社アイボックス

神奈川県川崎市宮前区菅生6丁目6番55号

(74) 代理人 100096699

弁理士 鹿嶋 英實

(72) 発明者 橘 潔

神奈川県川崎市宮前区菅生6丁目6番55号 株式会社アイボックス内

(72) 発明者 外塚 顕雄

東京都品川区南品川3丁目5番4号

Fターム(参考) 5C096 CA33 CC06 DC30 DD03 EA01
FA05

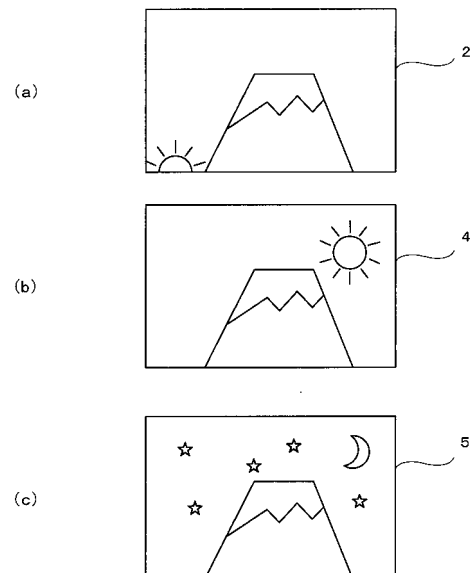
(54) 【発明の名称】 画像表示具

(57) 【要約】

【課題】 画像が表現されている画像体を照射する色に変化を持たせたり、照射対象である画像体を異ならせたりすることによって、画像体に表現されている画像があたかも時間の変化とともに変化しているかのように映すことのできる画像表示具を提供する。

【解決手段】 複数の画像体2、4、5を富士山をモチーフとした絵でレーザー加工技術によってマーキングし、複数の画像体によって朝、昼、夜の雰囲気をかもしだすように光の照射制御を行う。これにより、表現媒体である画像体を包み込んでいる空間の雰囲気に合った画像を表示する。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

所定の画像がマーキングされている画像体と、
該画像体を光によって照射する照射手段と、
該照射手段の照射態様を制御する制御手段と、
該画像体を支持する支持体と、
を備えたことを特徴とする画像表示具。

【請求項 2】

所定の画像が描かれたシートと、
該シートが貼付された画像体と、
該画像体を光によって照射する照射手段と、
該照射手段の照射態様を制御する制御手段と、
該画像体を支持する支持体と、
を備えたことを特徴とする画像表示具。

【請求項 3】

前記制御手段は、タイマーを備え、
該タイマーに基づき前記照射手段の照射態様を制御することを特徴とする請求項 1 又は
2 記載の画像表示具。

【請求項 4】

前記画像体は複数枚からなり、
画像体と画像体の間に遮光体を配置し、該遮光体は通電することによって光を透過し、
非通電時は光の透過を遮断するものであり、
前記制御手段は、前記照射手段の前記制御に加えて、前記遮光体への通電を制御するよ
うに構成したことを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の画像表示具。

【請求項 5】

前記制御手段は、タイマーを備え、
該タイマーに基づき前記照射手段の照射態様及び前記遮光体への通電を制御することを
特徴とする請求項 4 記載の画像表示具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、画像表示具に係り、詳しくは、画像が表現されている画具を照射する光の色
に変化を持たせたり、照射する画具を異なせたりすることによって、画具に表現されて
いる画像が例えばあたかも時間の変化とともに変化しているかのように映すことのできる
画像表示具に関する。

【背景技術】

【0002】

従来の画具としては、絵画、版画や写真などがある。

これらの画具は、玄関、応接間、居間や書斎などのあらゆる居住空間に、なんら手を加
えられることなく直接に飾られることによって、あるいは、額縁に入れられたり、直接貼
り付けられたりするなどして飾られることによって、人にそれらの画具を鑑賞する楽しみ
を与え、生活空間に潤いを与えてきた。

また、毛色の変った画具としては、次の特許文献に記載のものがある。

【0003】

【特許文献 1】登録実用第 3004746 号公報 この文献においては、1 つの絵を遠近
に応じて複数に分割し、これらの分割した絵をそれぞれ別個の透明基板に描き、遠近に応
じてそれらの透明基板を重ね合わせて額縁内に収める技術が開示されている。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、従来の画具においては、表現媒体に画像が固定されていたため、表現媒体である画具を包み込んでいる空間の雰囲気にあった画像を表示することができないという問題点があった。

例えば、絵画、版画やポスターなどにあつては、風景や人物像などの画像は、キャンバス、木板や紙などの表現媒体にいわば貼り付けられた状態のものであったため、変化する空間の雰囲気に応じて画像自体が変化することができないという問題点があった。

また、先に引用した文献の画具にあつては、遠近を付けることによって画像の表情の趣きを高めることはできても、変化する空間の雰囲気に応じて画像自体が変化することができないという問題点があった。

10

【0005】

本発明は、以上に述べたような問題点に鑑みてなされたものであり、画像が表現されている画像体を照射する色に変化を持たせたり、照射対象である画像体を異ならせたりすることによって、画像体に表現されている画像があたかも時間の変化とともに変化しているかのように映すことのできる画像表示具を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記課題を解決するため、請求項1に記載の画像表示具は、所定の画像がマーキングされている画像体と、

20

該画像体を光によって照射する照射手段と、

該照射手段の照射態様を制御する制御手段と、

該画像体を支持する支持体と、

を備えたことを特徴とする。

【0007】

請求項2に記載の画像表示具は、所定の画像が描かれたシートと、
該シートが貼付された画像体と、

該画像体を光によって照射する照射手段と、

該照射手段の照射態様を制御する制御手段と、

該画像体を支持する支持体と、

を備えたことを特徴とする。

30

【0008】

請求項3に記載の画像表示具は、前記制御手段は、タイマーを備え、

該タイマーに基づき前記照射手段の照射態様を制御することを特徴とする。

【0009】

請求項4に記載の画像表示具は、前記画像体は複数枚からなり、

画像体と画像体の間に遮光体を配置し、該遮光体は通電することによって光を透過し、非通電時は光の透過を遮断するものであり、

前記制御手段は、前記照射手段の前記制御に加えて、前記遮光体への通電を制御するように構成したことを特徴とする。

40

【0010】

請求項5に記載の画像表示具は、前記制御手段は、タイマーを備え、

該タイマーに基づき前記照射手段の照射態様及び前記遮光体への通電を制御することを特徴とする。

【発明の効果】

【0011】

本発明によれば、制御手段によって、画像体に光を照射する照射手段の照射態様を制御するので、画像体を照射する色に変化をもたせることができるとともに、照射すべき画像体の表現を異ならせるものにすることができ、表現媒体である画像体（画具）を包み込んでいる空間の雰囲気にあった画像を表示することができる。

50

例えば、画像体に表現されている画像があたかも時間の変化とともに変化しているかのような視覚的效果を得ることができる。

特に、変化する空間の雰囲気に応じて、画像自体から受ける印象を変化させることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0012】

以下、図面を参照して本発明の画像表示具を実施するための最良の形態について説明する。

(第1の実施の形態)

A. 構成

10

まず、図1～図6を用いて、本実施形態の画像表示具の構成について説明する。

図1は、本発明の画像表示具を、家庭内やオフィスなどで飾ることができる程度の大きさで、具体的には10号(45.5×53(cm))の大きさで実施した画像表示具の正面図を示すものである。

図1において1は画像表示具であり、画像表示具1は、画像体2と画像体2を支持する支持体としての額縁3とから構成されている。画像体2は額縁3に収納されていると言っても良い。

なお、支持体は額縁のようなものに限る必要はなく、その他の機構であってもよい。例えば、画像体自体が独立して立脚するようなものであれば、単に軽く支持するような構造であってもよい。要は、画像体2を如何に光の照射で表現するかに鑑みて、相応しい支持構造にすればよい。

20

【0013】

画像体2の材質はクリスタルであり、画像体2には、その表面でなく内部に、雪化粧した初冬の富士山の朝焼けをモチーフとした絵が特殊なレーザー加工技術によってマーキングされている。なお、画像体2の材質は、クリスタルに限られるものではなく、フロートガラスやアクリルなどの透明なものであっても良い。

ここで、画像体2の内部にマーキングしているのは、視覚的效果を高めるためである。すなわち、画像体2に光を照射したときに光によってマーキング部分が投影的に反射・透過する等して人に与える印象が幻想的なものとなるので、このような幻想的な視覚効果を得るために内部マーキング処理を施している。

30

このように、視覚的效果という観点からは内部マーキングが望ましいものの、内部マーキングでなく外部マーキングであっても良い。つまり、画像体2の表面にマーキングする形態であっても良い。

また、マーキング処理を施すのではなく、絵が描かれたシートを画像体2の表面に貼付する構成としても良い。

【0014】

ところで、図1で視認することができる画像体は画像体2だけであるが、表現されている画像があたかも時間の変化とともに変化しているかのような視覚的效果を醸し出すために、額縁3の内部には、この画像体2の他にも、同一の富士山を時間を変えて描いた画像体がもう2枚、画像体2の背後に納められている。

40

これらの異なるもう2枚の画像体を示したものが図2である。すなわち、図2(a)は上述した朝焼けの富士山をモチーフとした画像体2であるが、この他にも額縁3の内部には、図2(b)で示されている昼バージョン(太陽が富士山を昼間に照している)としてマーキングした画像体4、及び、図2(c)で示されている夜バージョン(月が富士山を照らしている)としてマーキングした画像体5が納められている。

【0015】

図3は、画像体2の周囲の構造を示すものである。

図3において、6は基板であり、基板6は画像体2が額縁3内でズレないように固定するための役割を果たしている。そして、基板6上には、照射手段として発光ダイオード7～14が設けられている。

50

図示することは省略するが、以上のような画像体 2 を取り囲む構造と同様の下で、画像体 4 及び画像体 5 をそれぞれ照射する手段としても発光ダイオードが設けられている。

【0016】

ところで、本実施形態は、後述するように 3 つの異なる画像体 2、4、5 について、あるときは画像体 2 が照らされているかのように、またあるときは画像体 4 や 5 が照らされているかのように映し出すことその他、朝・昼・晩という異なる時間帯に応じた適切な色で画像体を照射することによって画像表示具を取り囲んでいる「場」の雰囲気が高めることを意図している。

【0017】

そこで、画像体 2、4、5 を照射する手段としては、それぞれに異なる色を発光するものを用いている。 10

すなわち、発光ダイオード 7～14 には朝焼けの雰囲気を醸し出すために赤色発光のものを用いている一方、画像体 4 及び画像体 5 を照射する手段としての発光ダイオードには黄色発光及び青色発光のものをそれぞれ用いることによって、昼ないし夜の雰囲気を最大限に引き出している。

【0018】

図 4 は、図 1 を、図 3 で触れた発光ダイオード 9、14 を通るような線で切った場合の断面図の一部を示すものである。

図 4 において、15 は電子的に光の透過／不透過の制御が可能な所定のスリガラス（遮光体）であり、スリガラス 15 は通電することによって光を通す性質のものを用いている。なお、非通電時は光の透過を遮断する。 20

【0019】

本実施形態では、図 4 で端的に示されているよう、2 枚のスリガラスによって仕切られることによって、画像体等が 3 層構造となって重ね合わされている。

すなわち、スリガラス 13 より前にある、画像体 2 や基板 6 や赤色発光ダイオード 9、14 などから成る層を第 1 層と呼ぶとすると、第 2 層目としては、画像体 4 や基板 16、黄色発光ダイオード 17、18 などが設けられており、この第 2 層目の背面にスリガラス 19 が設けられている。そして、第 3 層目としては、画像体 5 や基板 20 や青色発光ダイオード 21、22 などが設けられている。

【0020】

図 5 は、以上で述べたような内部構造を有する本実施形態の画像表示具 1 を背面から見たものである。 30

図 5 において 23 は裏板で、裏板 23 には、電池収納ボックス 24 が備えられており、単三電池 27、28 が電池収納ボックス 24 内に収められた状態となっている。

29 は 2 路切換え式の入力切換えスイッチであり、入力切換えスイッチ 29 は電源のオン・オフの切り換えを行うものである。

30 は後述する 3 つの状態の切換えを行う切換えボタンである。

以上のような構成を有している裏板 23 を、ビス 29～34 で固定している。

【0021】

B. 電気系統の構成 40

次に、電気系統の構成について説明する。

図 6 は、本実施形態の電気系統に関するブロック図である。

図 6 において 35 は入力部であり、この入力部 35 には、入力切換えスイッチ 27 と切換えボタン 30 とが含まれる。

入力部 35 から発せられた信号は CPU 36 に送られ、CPU 36 は当該信号に基づいて照射手段たる発光ダイオードを制御するために必要な処理を行う。なお、CPU 36 はクロック回路と共にタイマーを内蔵している。そして、CPU 36 はタイマーに基づき、複数の画像体 2 で表現される画像の表示態様を時間の経過に従って異なる態様に変化させるように照射手段の照射態様を制御する処理を行う。ROM 37 には光の照射制御に関するプログラムや必要なデータが格納されており、また、RAM 38 はデータの一時記憶等 50

を行う。

【0022】

CPU36によって演算された処理内容は制御信号としてドライバ39に送られ、ドライバ39は該信号に従って、第1層LED40、第2層LED41、第3層LED43や、スリガラス15、19を駆動する。例えば、各LED40～43は通電されるとそれぞれが対応する光を照射し、通電が停止すると照射を止める。また、スリガラス15、19はドライバ39からの信号に基づいて光の透過／不透過を行う。

【0023】

ここに、第1層LED40とは、基板6上にある全てのLEDのことを指し、具体的には赤色発光ダイオード7～14のことである。また、第2層LED41とは、基板16上にある全てのLEDのことを指し、具体的には黄色発光ダイオード17、18がこれに当たる。さらに、第3層LED42とは、基板22上にあるLEDのことを指し、具体的には、青色発光ダイオード21、22がこれに当たる。

【0024】

以上のような電気系統に関する構成は、本実施形態では、ワンチップのマイクロ・コンピュータによって実現されており、該マイクロ・コンピュータは画像体5と裏板23の間に、基盤として形成されて設けられている。

上記ワンチップのマイクロ・コンピュータ、2路切換え式の入力切換えスイッチ29及び切換えボタン30は制御手段を構成する。

なお、本実施の形態では制御手段をワンチップのマイクロ・コンピュータを含めて実現しているが、制御方法はこれに限られるものではない。例えば、CPUを用いずに、単にワイヤードロジック回路により電子的な基盤で実現してもよい。

【0025】

C. 作用

次に、作用について説明する。

本実施の形態では、複数の画像体によって朝、昼、夜の雰囲気を醸し出すように光の照射制御が行われる。

(a) 朝

まず、朝の表情を出すために、入力切換えスイッチ29をオン側にする。

そうすると、第1層の発光ダイオードの全て（発光ダイオード5～12）についてのみ電気が流れる状態となる。換言すれば、スリガラス13、19にも、また、第2層の発光ダイオード（発光ダイオード17、18の他、図示省略の同一クリスタル基板16上に設けられた6つの発光ダイオード）にも、第3層の発光ダイオード（発光ダイオード23、24の他、図示省略の同一クリスタル基板22上に設けられた6つの発光ダイオード）にも電気は流れない。以下、便宜のために、上述したこの状態を第1状態と呼ぶ。

このとき、第1層の発光ダイオード5～12は赤色発光で画像体を照射し、朝焼けの雰囲気が醸し出され、特に朝日が昇る様子が印象深く表される。

【0026】

(b) 昼

電源がオンされたこの第1状態になった時から8時間経過すると、第1層のこれらの発光ダイオードには電気が流れなくなり、スリガラス13に電気が流れるとともに、第2層の発光ダイオードの全てに電気が流れる状態となる。なお、スリガラス19にも、第3層の発光ダイオードにも電気は流れない。以下、便宜のために、上述したこの状態を第2状態と呼ぶ。

このとき、第2層の発光ダイオードは黄色発光で画像体を照射し、昼間の雰囲気が醸し出され、特に太陽が富士山を昼間に照している印象が深く表される。

【0027】

(c) 夜

この第2状態になった時から8時間経過すると、第1層および第2層の発光ダイオードには電気が流れなくなり、スリガラス13、19に電気が流れるとともに、第3層の発光

ダイオードの全てに電気が流れる状態となる。以下、便宜のために、この状態を第3状態と呼ぶ。

このとき、第3層の発光ダイオードは青色発光で画像体を照射し、夜間の雰囲気が醸し出され、特に夜間に月が富士山の背後にいる印象が深く表される。

この第3状態から8時間経過すると、スリガラス13、19には電気が流れず、また、第2層及び第3層の発光ダイオードにも電気が流れず、第1層の発光ダイオードの全てについてのみ電気が流れる状態となる。すなわち、第1状態に戻る。

【0028】

以降、同様の処理が繰り返し行われるよう、マイクロ・コンピュータによって制御されている。

このように、本実施形態では照射手段たる発光ダイオードの照射時間がマイクロ・コンピュータによってタイマー制御されて、画像体を照射する色に変化をもたせて、画像体の表現を異ならせるものにし、表現媒体である画像体を包み込んでいる空間の雰囲気に合った画像を表示することができる。

【0029】

なお、電気をどこに流すかという点について、以上のように3つの状態があるところであるが、切換えボタン30を押すことによって割込みがかかり、時間が8時間経過することを待たずに次の状態へと遷移して行く。

すなわち、第1状態の下で切換えボタン30を押すと直ちに第2状態へと移り、第2状態の下で切換えボタン30を押すと直ちに第3状態へと移り、第3状態の下で切換えボタン30を押すと直ちに第1状態へと戻る。

【0030】

このように、本実施形態は、照射手段たる発光ダイオードの照射時間を切換えボタン30の割込みによってマイクロ・コンピュータへの指令を変化させて制御することもできるものである。このようにすると、人の操作によって細かく画像体の印象を変化させることができるという利点がある。

以上のような制御を通じて、第1状態においては画像体1が赤色の明りで照らされ、第2状態においては画像体14が黄色の明りで照らされ、第3状態においては画像体20が青色の明りで照らされる。

したがって、時間の変化とともに、あたかも画像体に表示されている画像が1日の時間経過に従って変化しているかのように映し出される。

【0031】

(第2の実施の形態)

次に、本発明の第2の実施の形態について説明する。

図7は本発明の第2の実施の形態を示す図であり、特に画像体と照射手段たる発光ダイオードについて示している。なお、制御手段及び支持体については図示を略している。

図7(a)において、51～53は何れも同一の富士山の画像がマーキングされた画像体であり、前記実施の形態と同様に支持体に固定されている。画像体51に対して照射手段たる発光ダイオード61～64が所定の光を照射可能に配置されている。例えば、発光ダイオード61は赤色、発光ダイオード62は黄色、発光ダイオード63は青色、発光ダイオード64は紫色のようになっている。

【0032】

同様に、図7(b)に示すように、画像体52に対して照射手段たる発光ダイオード71～74が所定の光を照射可能に配置されており、例えば発光ダイオード71は赤色、発光ダイオード72は黄色、発光ダイオード73は青色、発光ダイオード74は紫色のようになっている。

また、図7(c)に示すように、画像体53に対して照射手段たる発光ダイオード81～84が所定の光を照射可能に配置されており、例えば発光ダイオード81は赤色、発光ダイオード82は黄色、発光ダイオード83は青色、発光ダイオード84は紫色のようになっている。

10

20

30

40

50

図 7 (d) は各画像体 5 1 ~ 5 3 及び照射手段を共重ねて配置した例を示している。

【0033】

以上の構成において、この実施の形態では同一の富士山の画像体 5 1 ~ 5 3 に対してどの発光ダイオードを点灯させるか、あるいは点灯時間を制御するかによって画像の雰囲気を変化させる。

例えば、画像体 5 1 に対して発光ダイオード 6 1 を赤色で点灯し、その他は点灯を停止する。そうすると、いわゆる「赤富士」のような表情がかもし出される。

また、画像体 5 2 に対して発光ダイオード 7 3 を青色で点灯し、その他は点灯を停止する。そうすると、いわゆる「青富士」のような表情がかもし出される。

また、画像体 5 3 に対して発光ダイオード 8 4 を紫色で点灯し、その他は点灯を停止する。そうすると、いわゆる「紫富士」のような表情がかもし出される。 10

【0034】

なお、2 つ以上の発光ダイオードと一緒に点灯させて、光を合成するように制御してもよい。あるいは発光ダイオードの照射時間、間隔等を変化させても、違った表情がかもし出される。

このように、同じ富士山の画像を複数用意しておいて、発光ダイオードの光等を変化させることにより、画像の表情を異なるものに印象付けて雰囲気を変化させることができる。

【0035】

(第 3 の実施の形態)

20

次に、本発明の第 3 の実施の形態について説明する。

図 8 は本発明の第 3 の実施の形態を示す図であり、これはモチーフを変えた例である。図 8 においては画像体と照射手段たる発光ダイオードについて示し、制御手段及び支持体については図示を略している。

図 8 に示すモチーフはオーロラである。9 1 ~ 9 3 はオーロラの画像をマーキングした画像体であり、何れも同一のオーロラ画像がマーキングされて前記実施の形態と同様に支持体に固定されている。

なお、オーロラ画像は同一でなく、異なる画像をマーキングしてもよいし、その場合は図 8 とは異なる表情がかもし出されることになる。

【0036】

30

図 8 (a) において、画像体 9 1 に対して照射手段たる発光ダイオード 1 0 1 ~ 1 0 4 が所定の光を照射可能に配置されている。例えば、発光ダイオード 1 0 1 は赤色、発光ダイオード 1 0 2 は黄色、発光ダイオード 1 0 3 は青色、発光ダイオード 1 0 4 は紫色のようになっている。

以下同様に、図 8 (b)、図 8 (c) にそれぞれ示すように、画像体 9 2 に対して照射手段たる発光ダイオード 1 1 1 ~ 1 1 4 が、また画像体 9 3 に対して照射手段たる発光ダイオード 1 2 1 ~ 1 2 4 がそれぞれ赤色、黄色、青色、紫色を照射するように配置されている。

【0037】

以上の構成において、この実施の形態では同一のオーロラの画像体 9 1 ~ 9 3 に対してどの発光ダイオードを点灯させるか、あるいは点灯時間を制御するかによって画像の雰囲気を変化させる。したがって、オーロラのような幻想的な雰囲気を光の照射がかもし出すことができる。 40

このような効果は、従来文献に記載のように単に 1 つの絵を遠近に応じて複数に分割し、これらの分割した絵をそれぞれ別個の透明基板に描き、遠近に応じてそれらの透明基板を重ね合わせて額縁内に収めるような技術と異なり、光によってオーロラの持つ雰囲気を演出できるという本発明独自のものであり、人に与える印象を強烈にして画像の特性を引出せるという優れた効果を奏するものである。

【0038】

(その他の実施の形態)

50

以上3つの実施形態においては、何れの形態においても画像体を3枚用いたが、用いる画像体の数はその他の枚数であっても良い。

例えば、画像がマーキングされ、又は画像が描かれたシートが貼付されている画像体を1枚だけ用い、これを照射する照射手段を一色でなく複数色で照射可能な構成として、これら複数色の内の一部又は全部が、時間の変化によって照射し又は照射しないように制御しても良い。

また、画像体に直接マーキングされ又はシートを介して描かれている画像としては、何れの形態においても風景を用いたが、風景画でなくても人物画、リトグラフあるいは書であっても良い。

また、画像体の大きさは室内で用いられるのに適当な大きさのものとしたが（具体的には10号）、この大きさに限られるものではない。 10

例えば、ホテルや会議場などの大型施設内の広い空間で用いる場合には、サイズを大きくして実施することも可能である。逆に、机の上に飾るものとして小さいサイズで実施することも勿論可能である。

また、本発明の画像体を屋外で用いることも可能である。例えば、屋外で表札や広告塔として用いることが可能である。このように屋外で用いる場合には、防水加工をするなど適宜設計変更すればよい。

【0039】

なお、本実施形態に示した具体的態様以外の態様についても、本発明の目的の範囲内で各種の変形実施、変形的な構成が可能である。そして、出願人はこのような変形実施等を排除する意思を有していないので、特許請求の範囲を解釈する際には当該各種の変形態様も含まれるものとして解されなければならない。 20

【図面の簡単な説明】

【0040】

【図1】本発明の一実施の形態の画像表示具の正面図である。

【図2】複数の画像体を示す図である。

【図3】画像体の周囲の構造を示す図である。

【図4】画像表示具の断面図である。

【図5】画像表示具の背面図である。

【図6】画像表示具の電気系統を示す図である。 30

【図7】本発明の第2の実施の形態の画像表示具を示す図である。

【図8】本発明の第3の実施の形態の画像表示具を示す図である。

【符号の説明】

【0041】

1、4、5 画像体

3 額縁（支持体）

7～14 赤色発光ダイオード（照射手段）

15、19 スリガラス（遮光体）

17、18 黄色発光ダイオード（照射手段）

21、22 青色発光ダイオード（照射手段） 40

36 入力部（制御手段）

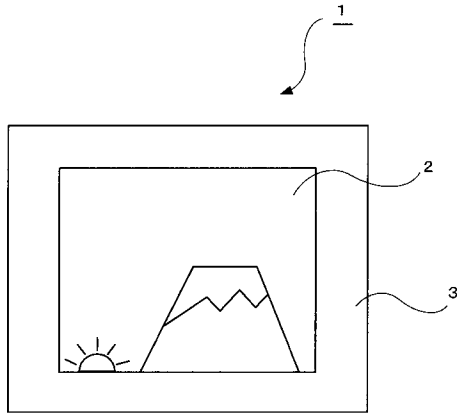
37 CPU（制御手段）

38 ROM（制御手段）

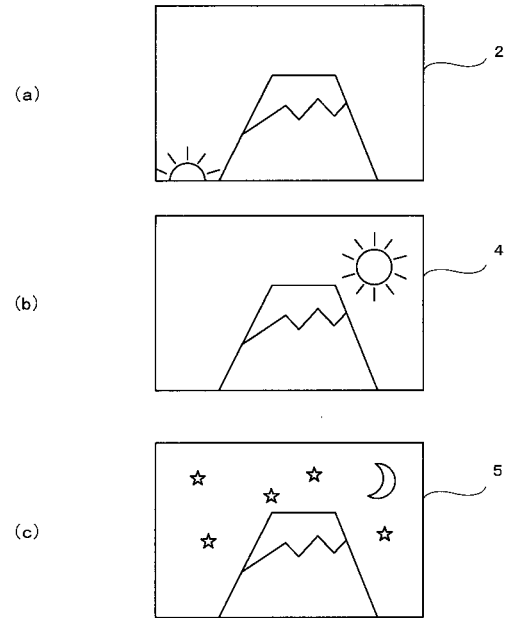
39 RAM（制御手段）

40 ドライバ（制御手段）

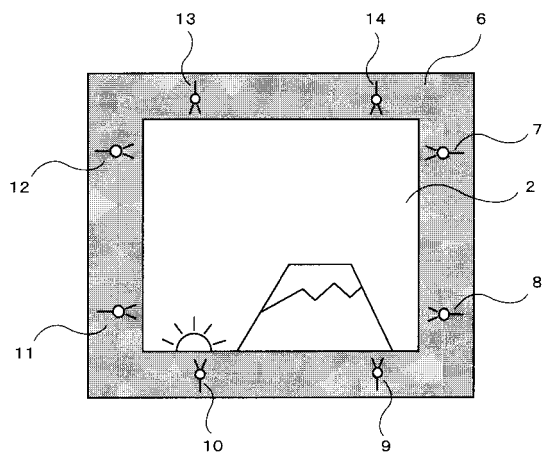
【図 1】



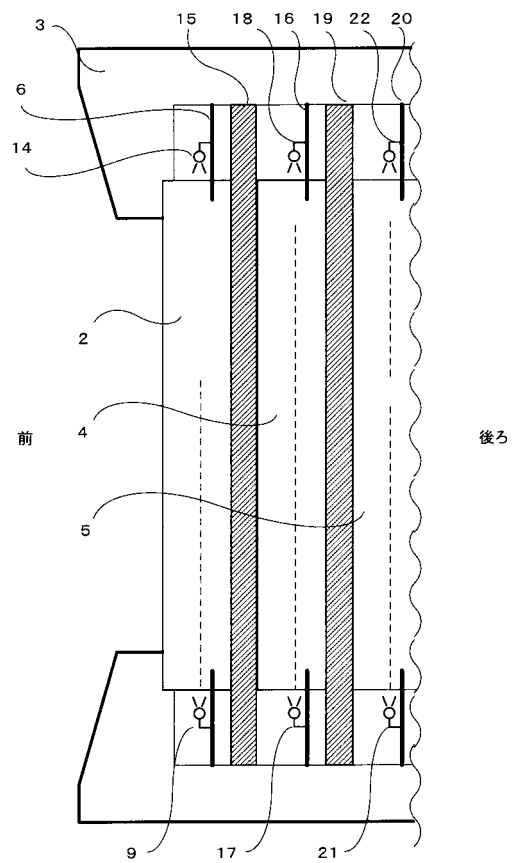
【図 2】



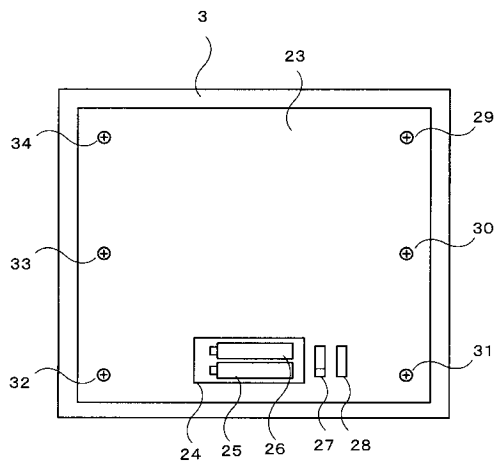
【図 3】



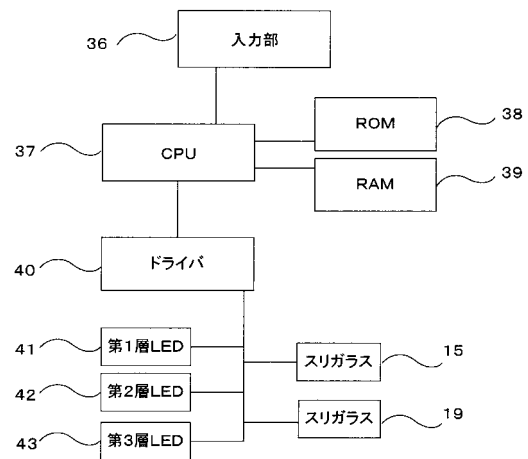
【図 4】



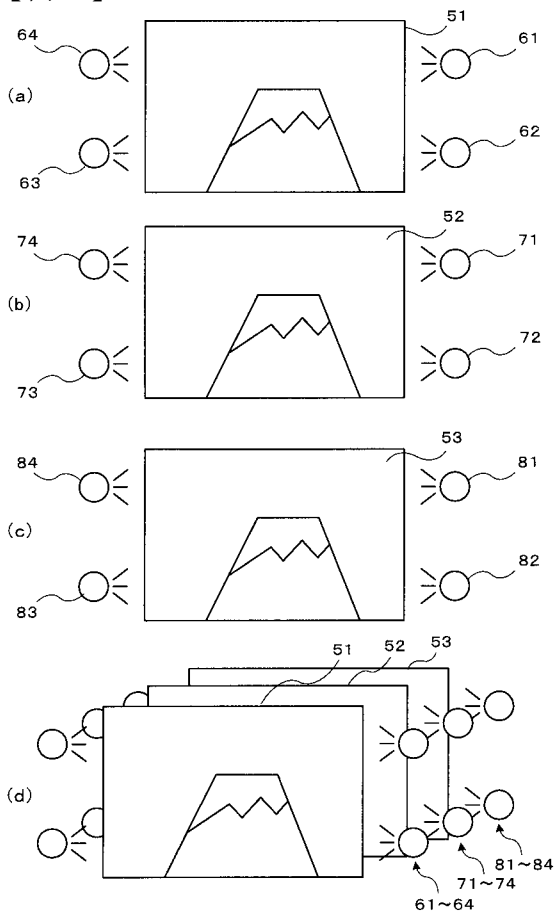
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

